

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

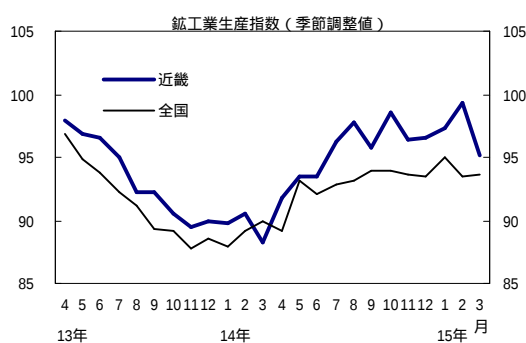
前回調査からの主要変更点

	前回（平成15年2月）	今回（平成15年5月）	
景況判断	持ち直しの動きが更に緩やかになっている	持ち直しの動きが緩やかになっている	↑
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、1月に携帯電話およびその部品が好調だったものの2月には反動減となり、3月は小幅な増加にとどまった。一般機械は1月に一般用蒸気タービンが、2月にはポンプが伸びたことから、引き続き堅調に推移している。化学は、3月に化学材料が大きく増加したことなどから1～3月期でみても高い伸びとなった。金属製品はこのところ堅調に推移していたが、3月に橋りょうの減少から大きな落ち込みとなった。繊維は綿織物などの減少から3か月連続で減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期
電気機械	17.7	5.0	0.4	2.7		6.9	
一般機械	16.2	3.9	3.8	3.0		0.8	
化学	11.8	▲9.0	4.0	3.0		▲4.3	
金属製品	7.3	2.8	0.8	2.0		▲2.6	
繊維	7.3	▲0.5	▲2.4	▲3.8		▲1.0	
鉱工業	100.0	0.6	0.0	1.3		▲1.2	

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期速報値。

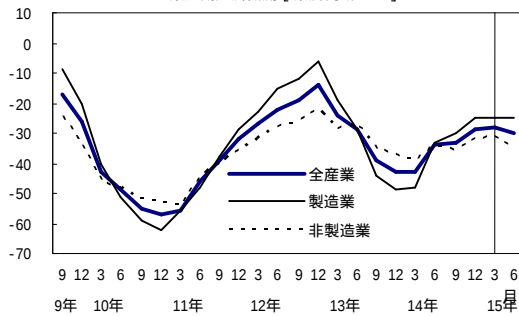
(備考) 1. 平成15年3月の近畿は速報値。

2. 近畿は平成7年基準（左目盛）、全国は平成12年基準（右目盛）。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅が、それぞれ横ばいとなっている。

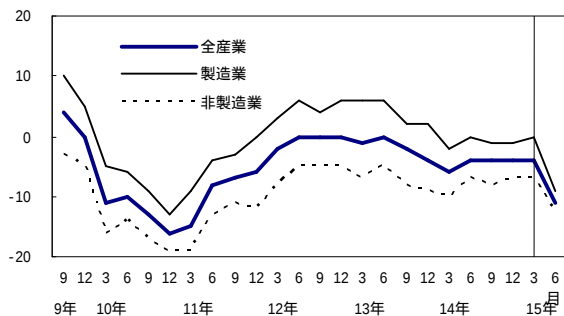
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]

(%ポイント) 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]



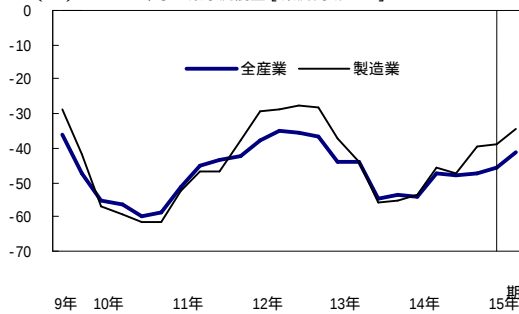
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測。

(%ポイント) 企業短期経済観測調査 [資金繰り判断DI]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「昨年末からの好調な荷動きの流れは今月に入っても維持しているが、販売価格は依然として下落傾向にあるため、トータルでみると変わらない状況が続いている (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

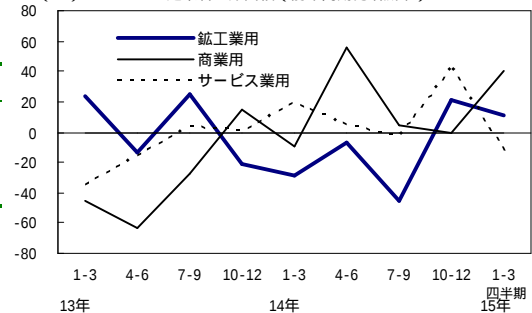
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位: %)

	14年度実績見込み	15年度見通
全産業	▲7.4(▲1.5)	▲4.4
製造業	▲12.6(▲2.3)	2.9
非製造業	▲3.5(▲0.9)	▲9.3

(備考) () は前回 (12月) 調査修正率。

(%) 建築着工床面積 (前年同期比増減率)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

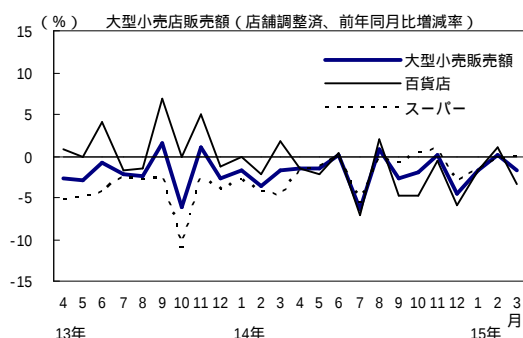
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、主力の衣料品をみると、2月にワイシャツ、コートの好調から前年比でプラスとなったものの、3月は春物の不振から再び前年を下回った。飲食料品をみると、洋菓子の好調により前年比でプラスを続けた。

スーパーは、主力の飲食料品をみると、牛肉の回復や、野菜の相場高もあり堅調に推移している。一方で、家具・家電等は減少している。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「この2、3か月、付加価値の高い商材のお買得品のみが売上増加の傾向にあり、集客のための広告効果が薄くなっている。客の商品を見る目が大変厳しく、良い物と悪い物の差別化を特に求めている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

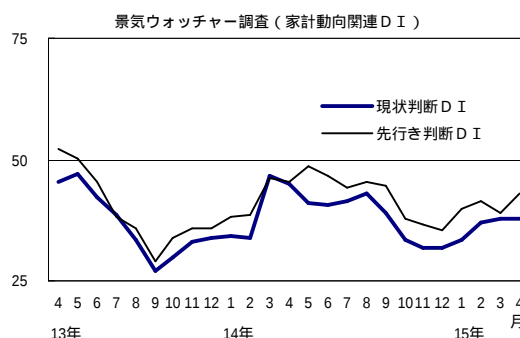
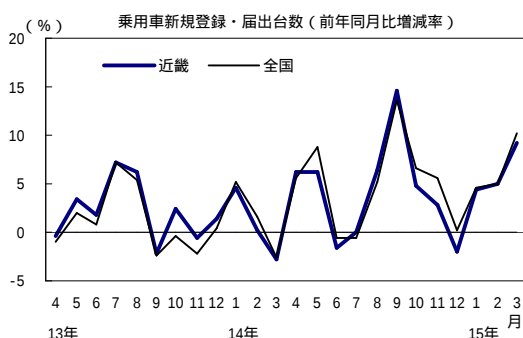


(前年同月比増減率、単位：%)

	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	▲1.1	▲3.0	▲2.4	▲1.2
百貨店	▲1.1	▲3.9	▲4.0	▲1.6
スーパー	▲1.0	▲2.3	▲0.9	▲0.9
乗用車	3.1	7.0	1.9	6.9
景気ウォッチャー	42.2	41.0	32.4	36.1

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

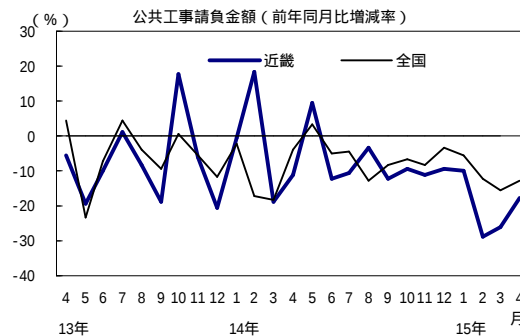
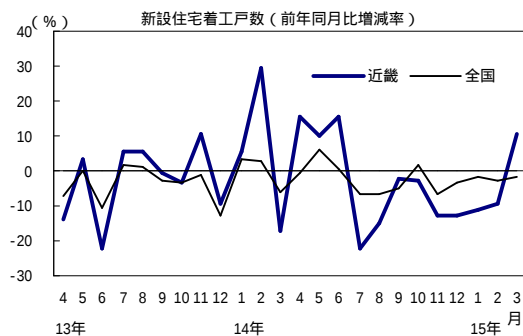
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

引き続き分譲が前年を下回っていることから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は14年度累計でみると13年度を下回っている。

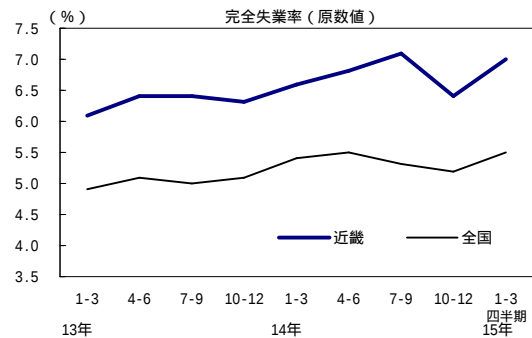
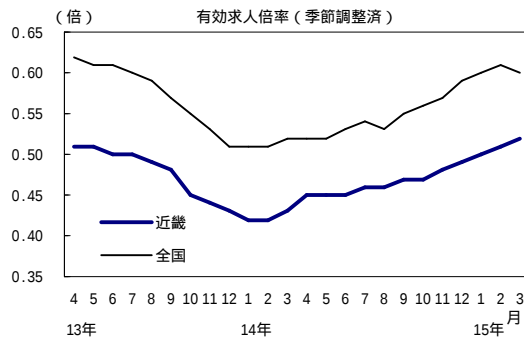


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「新規求人数は、昨年5月より微増傾向が続いているが、請負、派遣会社からの求人が相変わらず目立っており、求職者とのミスマッチが続いている。新規求職者のうち、無業者の占める割合が過去最高となった (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

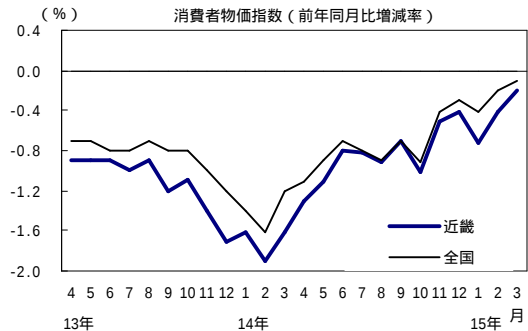
(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	1,082	1,084	1,031	999	338
(前年比)	2.3	▲0.9	▲14.9	▲7.8	10.1
負債総額	6,759	5,243	7,116	7,805	2,831
(前年比)	8.3	▲81.4	23.1	▲8.7	103.4



○ 景気ウォッチャー調査 (4月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・イラク戦争とSARSによる海外渡航者の大幅な減少によって、空港店舗の売上が予算比60%台に落ち込んでおり、会社業績にも大きな影響を与えている (一般レストラン)。

<先行き>

・住宅ローン減税の駆け込み需要と、相続時精算課税制度の特例による潜在需要の喚起効果の期待から、現状より良くなると予想している (その他住宅 [展示場])。

